

プリンスメロンの育苗,被覆および整枝の省力化について

宮脇弘三・村井修

プリンスメロンの栽培面積の拡大を図ろうとして,労力を要する育苗,被覆ならびに整枝の省力栽培法を検討し,つぎのような結果を得た。

1. 育苗はくん炭による簡易育苗法で十分よい結果が得られる。床土はくん炭単用でもよいが,砂または花崗土を 30%程度入れた,混合床土がより良好であった。
2. 本圃における被覆方法は従来行なわれているポリエチレントンネルにこもかけを行なう方法によらなくても,ロール紙とビニールフィルによる二重トンネルで保温効果は劣らなかった。
3. 孫蔓の整枝を省力した場合,熟期が 4~5 日遅れたが,果実が肥大するので収益面では問題ない,ただ過繁茂となるため病虫害防除,収穫などの作業に支障がある。
4. 過繁茂防止の手段として 2,4,5-TP を全面散布したところ,蔓の伸長抑制効果があり,しかも果実肥大促進にも効果があった。
散布時期は第 1 番果の収穫 10~15 日前で,濃度 3,000 倍液を 10 アール当り 70~80 ℓ 散布するのが適当である。